

第10回院内感染対策中央会議

宮城県・東北地域における 感染対策地域ネットワーク

東北大学大学院医学系研究科
感染制御・検査診断学
賀来 満夫



厚生労働省院内感染対策有識者会議からの提言

地域ネット で院内感染防ぐ

中小医療機関を支援 厚生労働省

8カ所でモデル事業へ



医療関連感染(HAI)

Healthcare Associated Infection

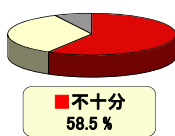
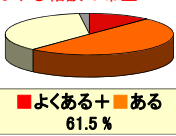
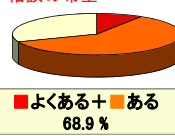
病院だけでなくクリニックや診療所、
長期療養施設、さらに在宅など医療
行為に関連する施設での感染が注目
されている

病院感染から医療関連感染へ

宮城県内医療施設へのアンケート

(平成15年度厚生労働省厚生科学特別研究事業)

・宮城感染コントロール研究会参加の105 医療施設および県内全病院を対象に実施
・135施設が回答(回答率81.8%)

感染管理の情報	市中感染の日常診療における相談の希望	院内感染についての相談の希望
 ■ 不十分 58.5%	 ■ よくある+ある 61.5%	 ■ よくある+ある 68.9%

感染対策地域ネットワークのニーズは
大きく、その構築は不可欠

今、求められているもの

↓

病院のみならず、クリニックや
診療所、さらには 長期療養施設
を含めた地域における感染症の
マネジメント : 地域ネットワーク

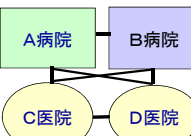
病院感染 (HI: Hospital Infection) から
医療関連感染 (HAI: Healthcare Associated Infection)

地域での連携が重要

各施設の 感染対策担当者が共通の課題
に対して感染制御に関するさまざまな
情報交換などが可能なネットワークの
構築が必要不可欠

施設内だけでなく地域全体の
医療関連施設を結んでいくと
いう広い視野に立った総合的
な危機管理システム構築が必要

MRSA
多剤耐性緑膿菌



平成11年8月宮城感染コントロール研究会発足

『宮城感染コントロール研究会(仮名)』発足に関する趣意書

趣意書
 宮城に於かれましては、益々ご厚幸のことと拝見申し上げます。
 さて、本年4月より感染症対策(感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律)が施行され、それに従って感染症発生動向調査(サーベイランス)についても法制化され、情報の収集と分析の重要性が認識されました。全国レベル、道県レベルのレベルにおいても、感染症の現状の把握と予防対策が推進されるものと考えられます。

・病院長への呼びかけ
 ・地域全体の取り組みの重要性

→ 病院感染対策は各施設
 そして地域における
 トップリスクマネジメント
 との認識で一致

平成 11年 8月 18日

発起人
 東北大学病院長
 東北大学医学部附属病院長
 東北大学医学部附属病院
 東北大学医学部附属病院
 東北大学医学部附属病院

宮城・東北感染制御地域ネットワークの歩み

1999年 8月 研究会準備会開催 (18施設)
 1999年 11月 第1回研究会開催 (31施設 147名参加)
 2000年 7月 第1回講習会開催 (158名参加)
 2000年 11月 第2回講習会開催 (181名参加)
 2001年 3月 第2回研究会開催 (53施設 225名参加)
 2001年 7月 第3回講習会開催 (289名参加)
 2001年 10月 バイオテロ緊急対策講習会開催
 2001年 11月 第3回研究会開催 (67施設 318名参加)
 2001年 11月 ICR(インフェクション・コントロール・ラウンド)開始

宮城・東北感染制御地域ネットワークの歩み

2002年 2月 イギリスICD・ICN講習会開催
 2002年 3月 第1回「KIDSかんせんセミナー」開催
 2002年 7月 第4回講習会開催 (71施設 278名参加)
 研究会が講習会形式にて継続決定
 2002年 12月 第5回講習会開始 (83施設 283名参加)
 2003年 3月 第2回「KIDSかんせんセミナー」開催
 2003年 6月 「SARS緊急対策講習会」開催
 2003年 7月 第6回講習会開催 (93施設 346名参加)
 「抗菌薬使用ガイドライン」完成
 2003年 10月 「多剤耐性緑膿菌サーベランス」開始
 2003年 12月 第7回講習会開催

宮城・東北感染制御地域ネットワークの歩み

2004年 3月 第3回「KIDSかんせんセミナー」開催
 7月 第8回講習会開催
 8月 夏季講習会開催
 9月 第4回「KIDSかんせんセミナー」開催
 10月 秋季講習会開催予定(109施設)
 12月 第9回講習会開催

● 病院長の理解を得て発足し、多数の施設が自主的に参加(117施設)
 ● 幅広い職域からの参加(ICTメンバー)
 ● 臨床現場における実際上の問題点・課題の討議

東北 6県で感染症ネット

創設 年内 病院連携情報共有

宮城から東北地域全体へ

東北感染制御ネットワーク

宮城県・東北地域における感染症対策・感染症診療地域ネットワーク

抗菌薬ガイド作成部会
 薬剤ガイド作成部会
 ベストプラクティス部会
 アル検討部会

アクションプラン

① 情報の共有化
 ② 連携・協力
 ③ 支援
 ④ 人材育成

ネットワークのアクションプランと活動

① 感染対策情報の共有化

- ・感染対策講習会の定期的開催（東北感染制御ネットワーク）
- ・Website・ホームページの活用（各種感染対策情報の掲載、PDF資料、DVD、マニュアル等）

② 感染対策の協力・連携

- ・共通ガイドライン・マニュアルの策定
 抗菌薬ガイドライン（2003年） 消毒薬のガイドライン（2007年）
 介護施設・高齢者施設の感染防止マニュアル（東北厚生局）
 ベストプラクティスマニュアル
- ・共通ポスターの作成と配布
 手洗い関連・咳エチケットポスター（東北厚生局）
- ・サーベイランスの実施（病原体サーベイ・アンチバイオグラム）
- ・啓発・教育セミナー（キッズ感染セミナー/Medical & Media ワークショップ）

ネットワークのアクションプランと活動

③ 感染対策の支援

- ・感染症相談窓口の開設
 電話、FAX、インターネットによる
- ・施設を超えた院内感染対策ラウンドの実施
 院内感染対策、アウトブレイク支援、新型インフルエンザ
- ・東北厚生局との院内感染研修会の共同開催
 平成17年より毎年実施、東北6県の拠点病院を研修場所とし、
 保健担当者、近隣の医療施設の医療従事者も参加
 午前中講義・午後ラウンド形式の実践的スタイル

④ 人材育成支援

- ・感染症危機管理人材育成システム（セミナーの開催）
- ・感染症診療地域連携寄附講座の開設（セミナー・指導）

東北感染制御ネットワークフォーラム

第2回 東北感染制御ネットワークフォーラム
 2009年8月29日 30日 仙台市太白区 仙台国際センター
 8月29日 9時～17時 8月30日 9時～17時

2009年8月29,30日, 約900名以上が参加

- ・新型インフルエンザシンポジウム
- ・感染制御ベーシックレクチャー
- ・アウトブレイクビデオシミュレーションセミナー
- ・薬剤耐性菌制御ワークショップ
- ・感染症診療ケースカンファレンス
- ・ベストプラクティスシンポジウム
- ・薬剤師のためのICワークショップ
- ・ICMTワークショップ
- ・各種機器展示
- ・微生物観察コーナー（市民参加）
- ・手洗い体験実践コーナー（市民参加）

2008年より毎年開催 地域における情報共有の場

東北感染症危機管理ネットワーク

地域におけるネットワーク活動

<http://www.tohoku-icnet.ac>

DVDをダウンロードし、活用することができ

Web を利用しての情報の提供、連携、支援

SARS対応DVDの作成と配布

2003年(平成15年)6月13日(金曜日)

新型肺炎

医療従事者向けDVD作成

東北大病院が対応指針を

各種DVDマニュアルの作成

SARS 対応受付 PPE 着脱法-1 PPE 着脱法-2

咳エチケット N 95 mask 着用法

パンデミック対応のためのDVD資料

—医療機関での対応—





パンデミック発生時の医療施設での
取り組みをシミュレーションしたもの

地域版抗菌薬使用ガイドライン2003

（宮城感染コントロール研究会編）

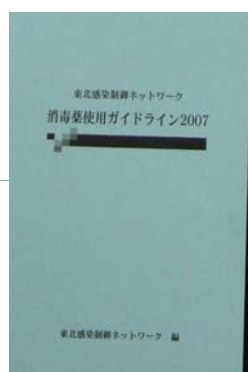



●各種感染症における抗菌薬療法の実際
●地域における薬剤感受性サーベイランス情報の資料添付

宮城・東北地域で約3,000部出版

東北地域の薬剤師による 実践的な地域版消毒薬 ガイドラインの作成

実践的で臨床現場での
消毒薬使用に極めて有用



各種マニュアルの作成と共同利用



ポスターの共同利用

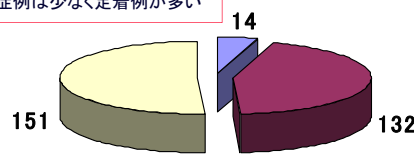
啓発ポスター作成と地域での共同利用




多剤耐性緑膿菌共同サーベイランス

定着例も含めた集計結果
(2001.1-2003.6)

- 地域や施設にかたよりがみられる
- 介護・老健施設などからも検出されている
- 尿道留置カテーテル患者の尿からの検出例が多い
- 感染発症例は少なく定着例が多い



■ 県南5施設 ■ 仙台市内8施設 □ 県北6施設

リスクコミュニケーションの構築

- 医療従事者だけが感染症対策を実施しているという認識だけでは不十分
- 感染症は共通リスクであるとの認識を共有することが不可欠
- 感染症の伝播リスクや特殊性を医療従事者だけでなく、患者さんを含めた一般の方々やメディアの方々にも情報を提供し、理解を深めていくことが重要

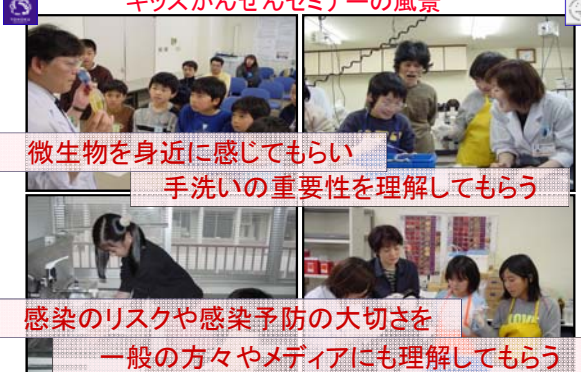
キッズかんせんセミナーの開催



- ・年一回
- ・小学生(中高学年)
- ・20~40人が参加

- ・手洗い講習
- ・グラム染色
- ・手洗いダンス

キッズかんせんセミナーの風景



微生物を身近に感じてもらい
手洗いの重要性を理解してもらう

感染のリスクや感染予防の大切さを
一般の方々やメディアにも理解してもらう

小学校への出前授業



キッズかんせんセミナーの感想

ドミニコ学院 小学校4の1 前O 卓O
「ぼくは、キッズかんせんセミナーを勉強してとても楽しかったです。最初にいろいろなきんを見て不思議だと思いました。けんぴ饅で口にいるきんを見たのもおもしろかったです。手に不思議な薬をつけて手を洗ってみました。手を洗った後にはきんが白く見える不思議な光で、手のきんを見ました。何回も手を洗わないとなかなかとれなかったです。特に、つめの部分は何回洗ってもなかなかとれなかったです。ぼくは、手洗いはとても大切だと思いました。」

修了証書

あなたは宮城感染症コントロール研究会主催の第1回春休みキッズかんせんセミナーにおいて所定の課題を修了し、手洗い名人となりましたことを証します。

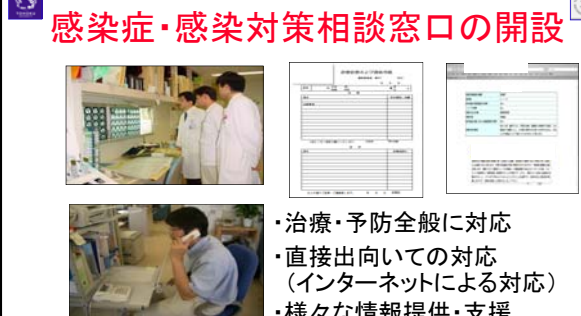
平成14年3月30日
東北大学大学院医学系研究科 教授
手洗い指南 賀来 満夫

Medical & Media ワークショップの開催



メディア各社との情報の共有化を通じ、感染症対策の難しさ、問題点を理解

感染症・感染対策相談窓口の開設



- ・治療・予防全般に対応
- ・直接出向いての対応(インターネットによる対応)
- ・様々な情報提供・支援

院内・院外問わず受け付け

